















さらに細かな洞察を得るため、個々のSPECjvm2008ワークロードのスコアに注目してみます。SPECjvm2008ベンチマーク9つのうち8つで、ARMv8の結果がインテルのプロセッサを上回りました。インテルのプロセッサの方が高速だったのは、1つだけでした。cryptoベンチマークの結果は、明らかにARMv8ベースのシステムが優れており、62 %上回っています。ARMv8版がArmチップで利用できるAESおよびSHA拡張を完全に活用していなかったならば、達成できなかった値です。

compressベンチマーク (ARMv8システムが12 %上回っています) では、CRC32C組み込み機能が使用されています。XMLベンチマーク (ARMv8プロセッサが29 %上回っています) とmpegaudioベンチマーク (ARMv8が44 %上回っています) では、java.lang.Stringおよびjava.lang.Arrays組み込み機能が使用されています。このような組み込み機能の中には、最近JDK 10および11でARMv8向けに改良されたものもあります。

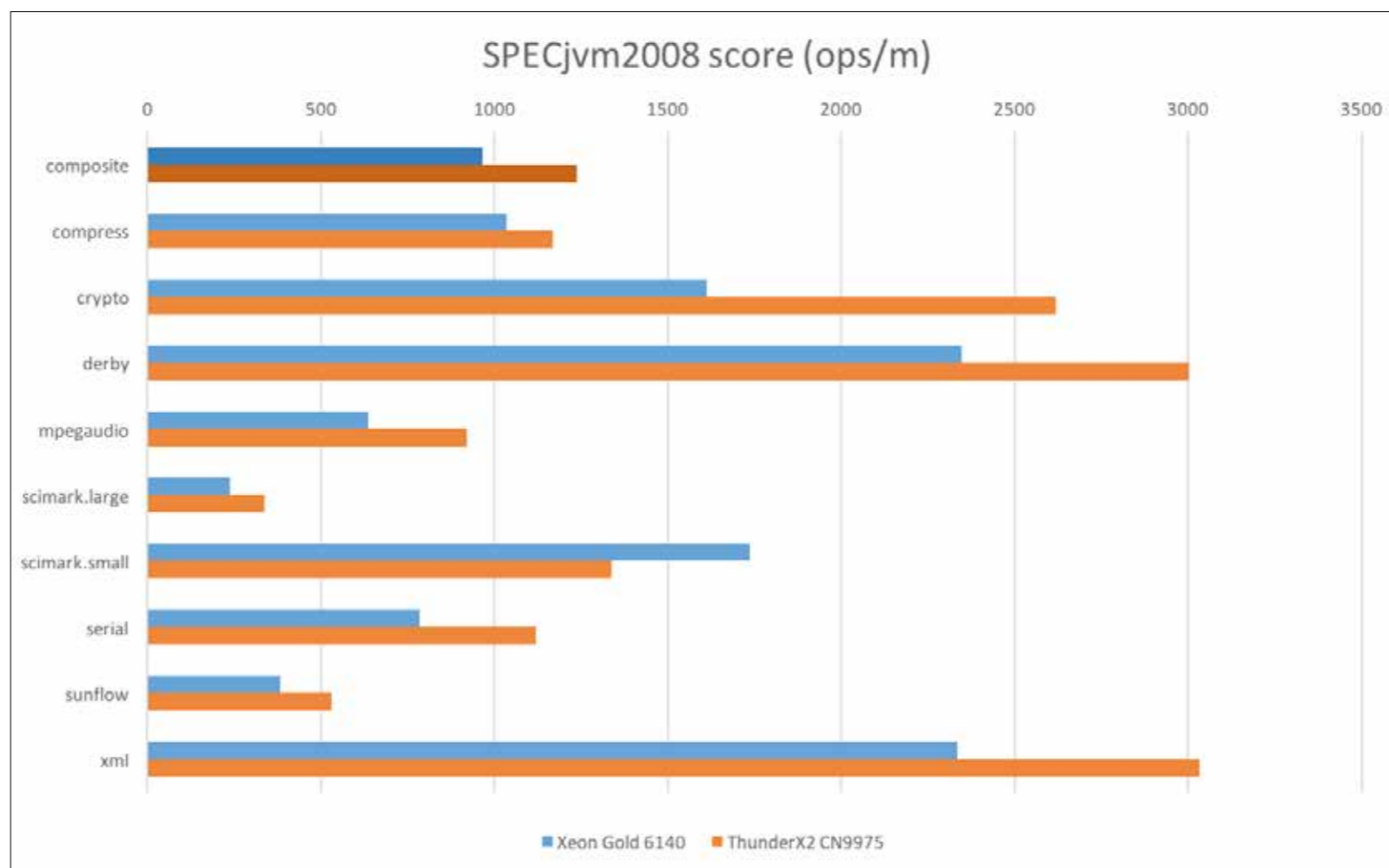


図2: SPECjvm2008のパフォーマンス計測結果







